

**GMO** フィナンシャルHD

2018年12月期

# 決算説明会

STOCK CODE:7177

代表執行役社長 グループCEO 鬼頭 弘泰  
常務執行役 グループCFO 山本 樹

2019年2月5日

■ 決算概要

事業概況/今後の展望

Appendix

# 過去最高業績を更新 次なる成長に向けた礎を構築

## FX

- AI・ビッグデータの活用等による収益性改善
- さらなる収益改善に向けたBtoBビジネスの実証実験開始

## 証券

- 株式信用取引の手数料・金利改定による利益率の改善
- 顧客層の裾野拡大に向けて、一般信用売りサービス、証券コネクト口座を開始

## 仮想通貨

- システムリスク管理態勢強化
- カバーモデルの見直しによる収益安定化
- 仮想通貨FXにアルトコインを追加、取引所サービスを開始

# 通期決算(1-12月) | サマリー(前年同一期間比)

- 収益・各利益ともに過去最高を更新

(億円)	前年同一期間参考値 (2017年1-12月)	2018年12月期 (2018年1-12月)	前年同一期間比	
			増減額	増減率
営業収益	272.3	<b>347.8</b>	75.5	27.7%
純営業収益	249.0	<b>328.7</b>	79.7	32.0%
営業利益	87.6	<b>118.1</b>	30.4	34.8%
経常利益	86.5	<b>118.4</b>	31.9	36.9%
最終利益	60.1	<b>77.1</b>	17.0	28.4%

当社は、2017年12月期より決算期を3月31日から12月31日に変更しています。本資料の前年比較は、2017年1月1日～12月31日を前年同一期間として算出した参考数値との比較により記載しています。

# 通期決算(1-12月) | セグメント別の状況(前年同一期間比)

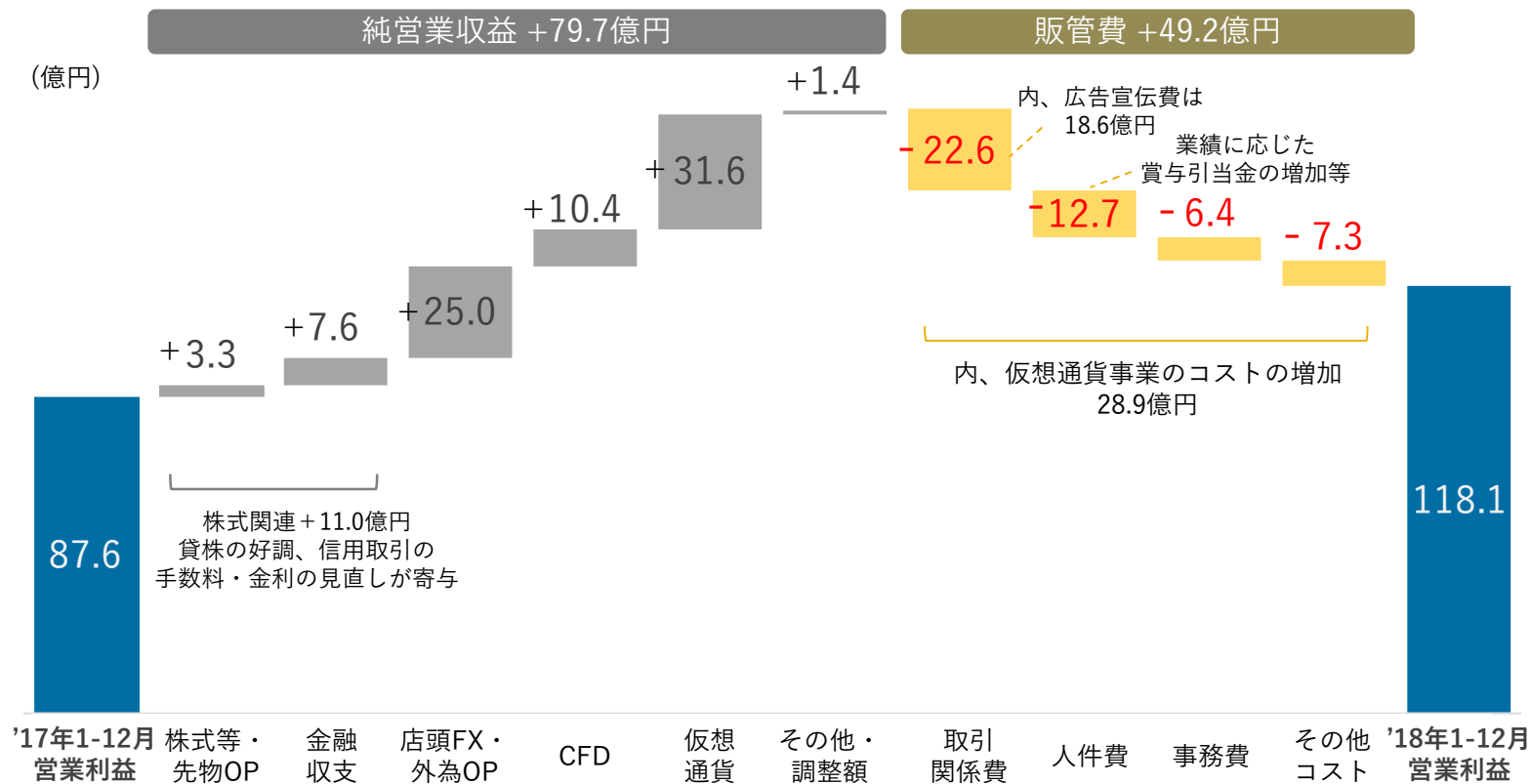
(億円)		2017年1-12月*	2018年1-12月
		証券・FX事業	
		80.7	109.0
仮想通貨事業		8.7**	40.3
		4.8**	7.2

\* 当社は、2018年12月期より報告セグメントに新たに「仮想通貨事業」を加え、従来の「金融商品取引業」は「証券・FX事業」へと名称を変更しました。2017年1-12月の数値は、参考値として記載しています。

\*\* 当社は、2017年9月22日にGMOコインの株式を追加取得し連結子会社化しました。2017年12月期における仮想通貨事業の営業収益、営業利益は、2017年10月-12月の期間における実績となります。

# 通期決算(1-12月) | 営業利益増減(前年同一期間比)

- 店頭FXなどが好調であった証券・FX事業が牽引して増益の着地



## 第4四半期決算(10-12月) | サマリー(前四半期比)

- 収益は前四半期で微減も、広告宣伝費等の費用が増加し減益の着地

(億円)	2018年12月期Q3 (2018年7-9月)	2018年12月期Q4 (2018年10-12月)	前四半期比	
			増減額	増減率
営業収益	88.8	85.5	-3.3	-3.7%
純営業収益	84.4	80.8	-3.5	-4.3%
営業利益	34.0	25.4	-8.6	-25.3%
経常利益	35.6	24.2	-11.3	-32.0%
最終利益	22.8	15.0	-7.8	-34.2%

# 第4四半期決算(10-12月) | セグメント別の状況(前四半期比)

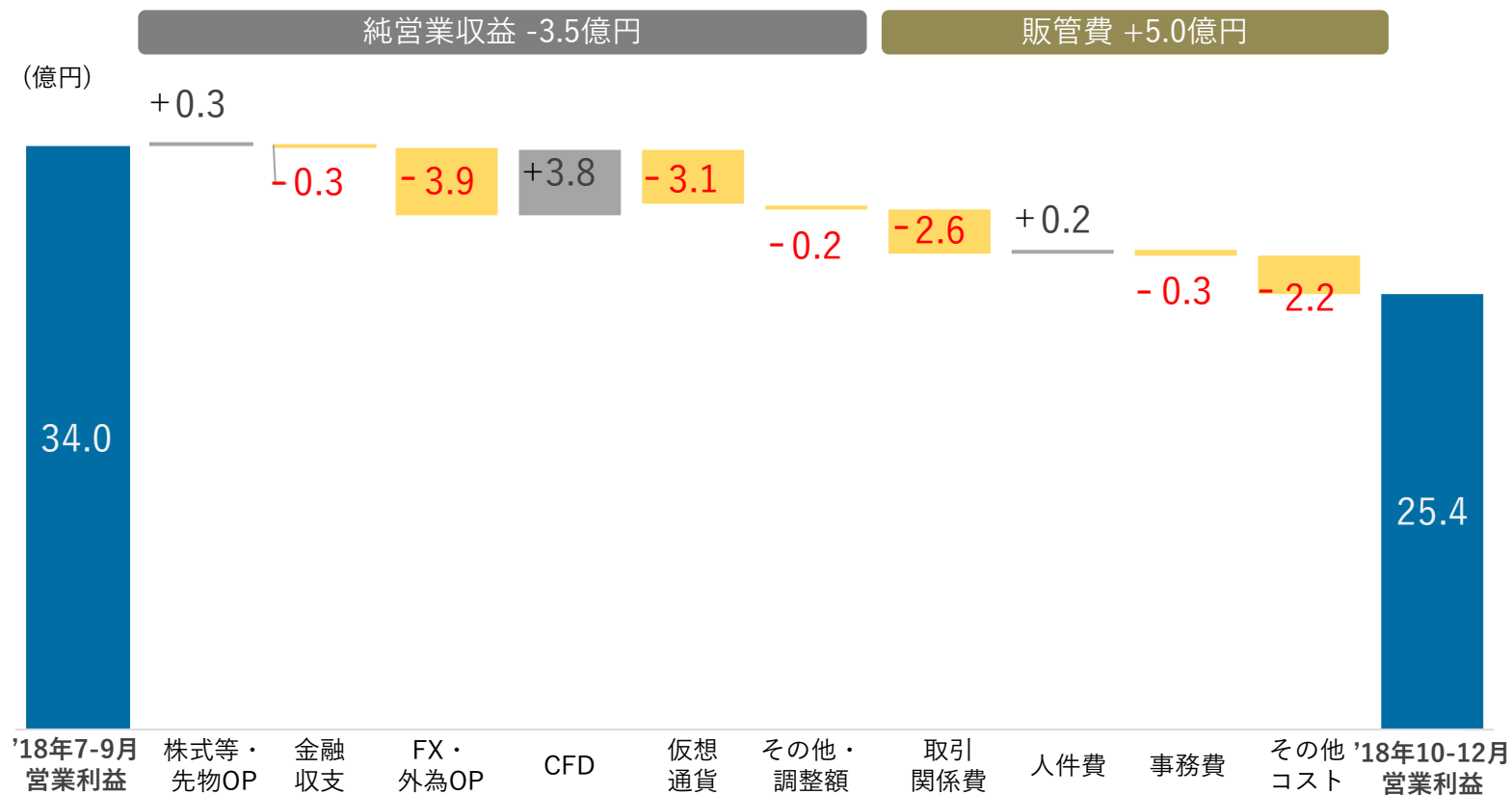
(億円)

		2018年7-9月	2018年10-12月
証券・FX事業	営業収益	73.5	73.4
	営業利益	26.1	22.6
仮想通貨事業	営業収益	13.6	10.5
	営業利益	7.4	2.3



# 第4四半期決算(10-12月) | 営業利益増減(前四半期比)

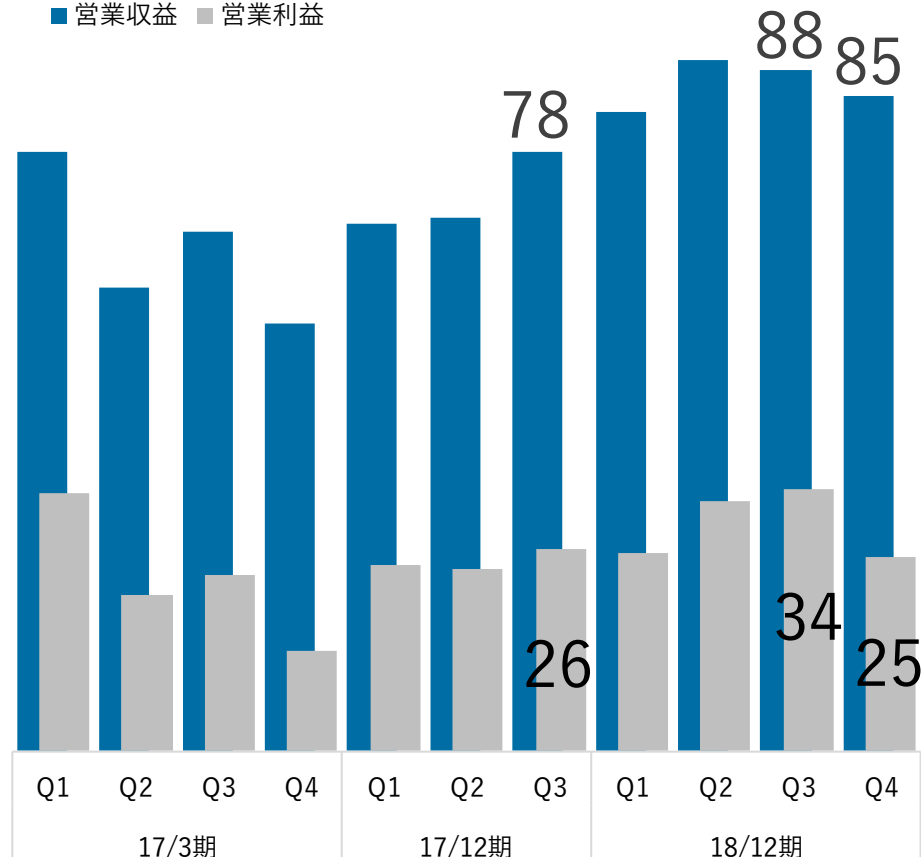
- 第4四半期決算(10-12月)は、広告宣伝費等の費用の増加により減益の着地



# 四半期業績推移 | 営業収益・営業利益

(億円)

■ 営業収益 ■ 営業利益



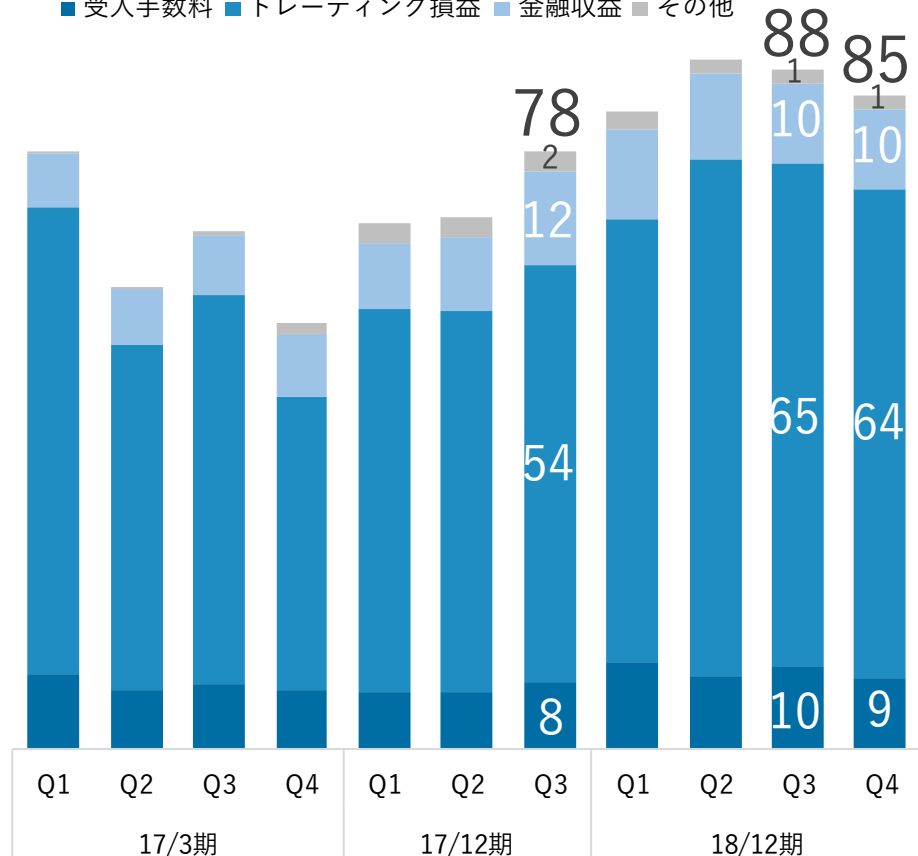
Q/Q  
**25.3%の減益**

広告宣伝費等の費用が増加

# 四半期業績推移 | 営業収益の内訳

(億円)

■ 受入手数料 ■ トレーディング損益 ■ 金融収益 ■ その他

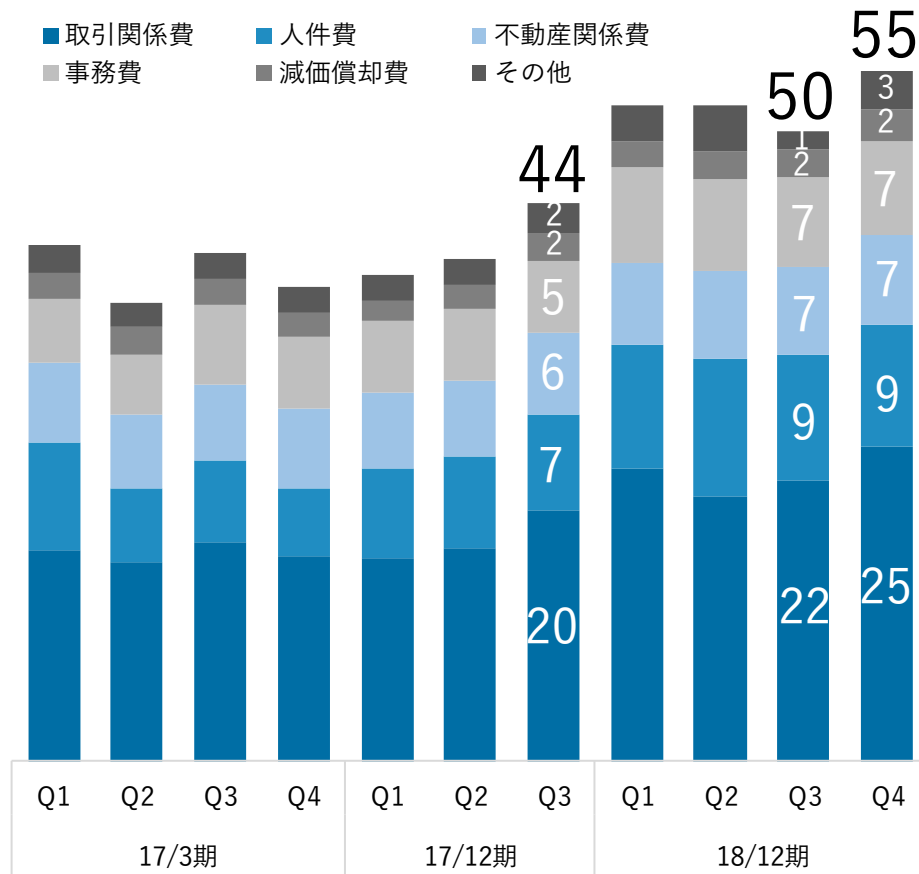


Q/Q  
**TR損益2.3%減**

店頭FXは引き続き好調で  
 前四半期とほぼ同水準の着地

# 販売費及び一般管理費の四半期推移

(億円)



Q/Q  
**10.0%増加**

広告宣伝費 +1.7億円

今後の費用見通し

**50億円強**

証券・FX事業が40億円強  
仮想通貨事業が10億円弱

目標

連結配当性向  
**50%** (年4回配当)

1株当たり 配当金	Q1	Q2	Q3	期末	年間
2018年 12月期	7.46円	8.98円	9.54円	<b>6.27円</b>	<b>32.25円</b>
2017年 12月期	6.90円	8.50円	-	6.20円	21.60円

決算概要

■ 事業概況

Appendix

## FX

取引高

(2018年10-12月)

206兆円

前年同期213兆円

取引高シェア

(2018年10-12月)

21.2%

前年同期22.7%

預り証拠金残高

(2018年12月末)

1,726億円

前年同月末1,572億円

## 株

売買代金

(2018年10-12月)

3.9兆円

前年同期6.0兆円

売買代金シェア

(2018年10-12月)

5.4%

前年同期6.7%

信用取引残高

(2018年12月末)

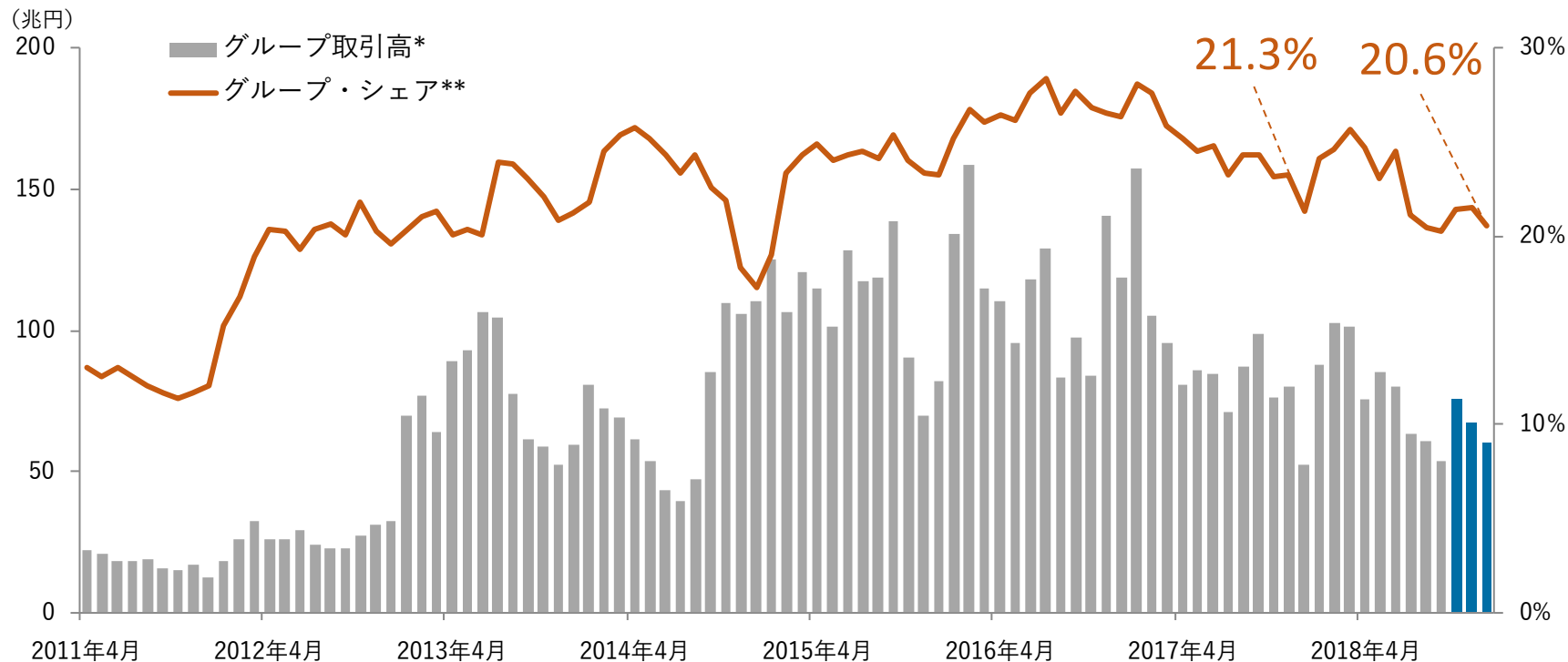
910億円

前年同月末1,291億円

FX取引高シェア、株式売買代金シェアは金融先物取引業協会、日本取引所グループ公表資料より当社作成  
FX(店頭FX)のデータは、GMOクリック証券及びFXプライムbyGMOの合計値  
株式売買代金シェアは、2市場の株式等個人委託売買代金(ETF・REIT含む)に占めるシェア

# 店頭FX | グループ取引高・シェアの推移

- グループシェアは減少傾向も20%以上で推移
- GMOクリック証券は、7年連続でFX取引高世界No.1※を達成



金融先物取引業協会「店頭FX月次速報」より当社作成

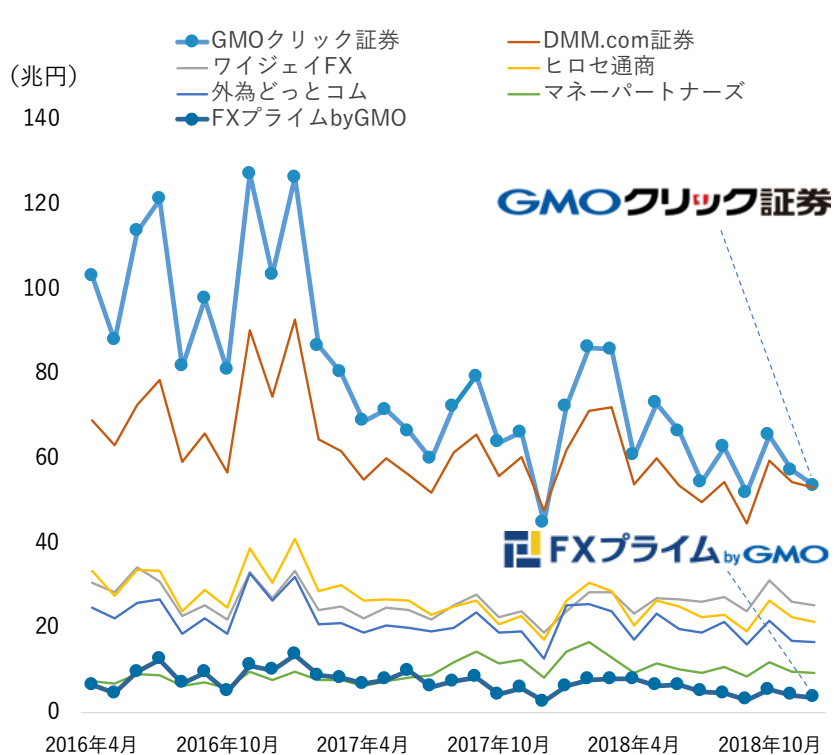
\* 2015年2月以前の店頭FX取引高はGMOクリック証券単体数値。2015年3月以降は、GMOクリック証券とFXプライムbyGMOの合計値

\*\* グループ・シェアは、金融先物取引業協会「店頭FX月次速報」を市場全体として算出

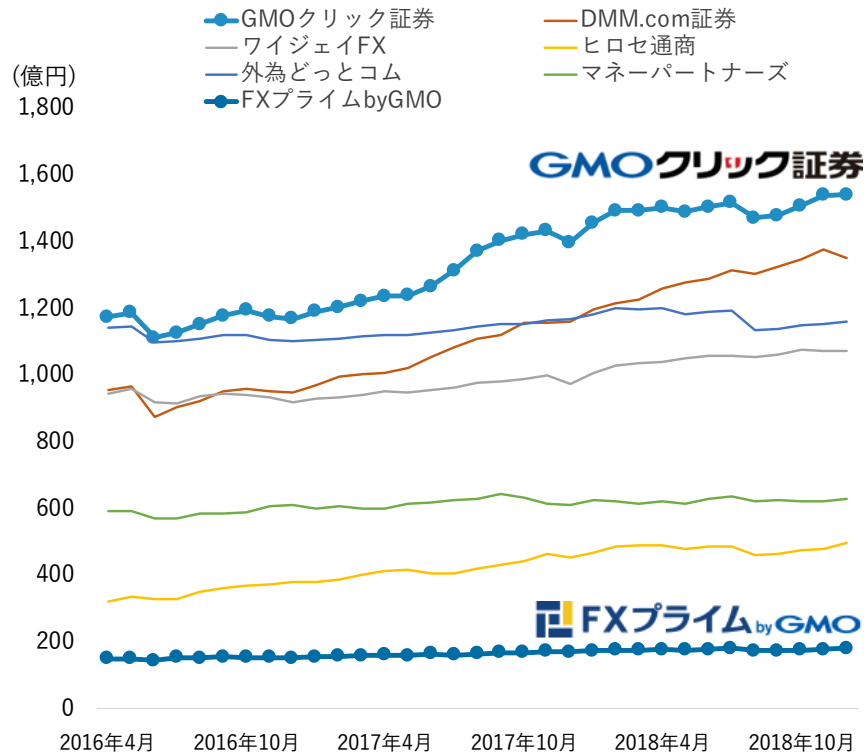
※Finance Magnates調べ (2012年～2018年)



## 店頭FX取引高

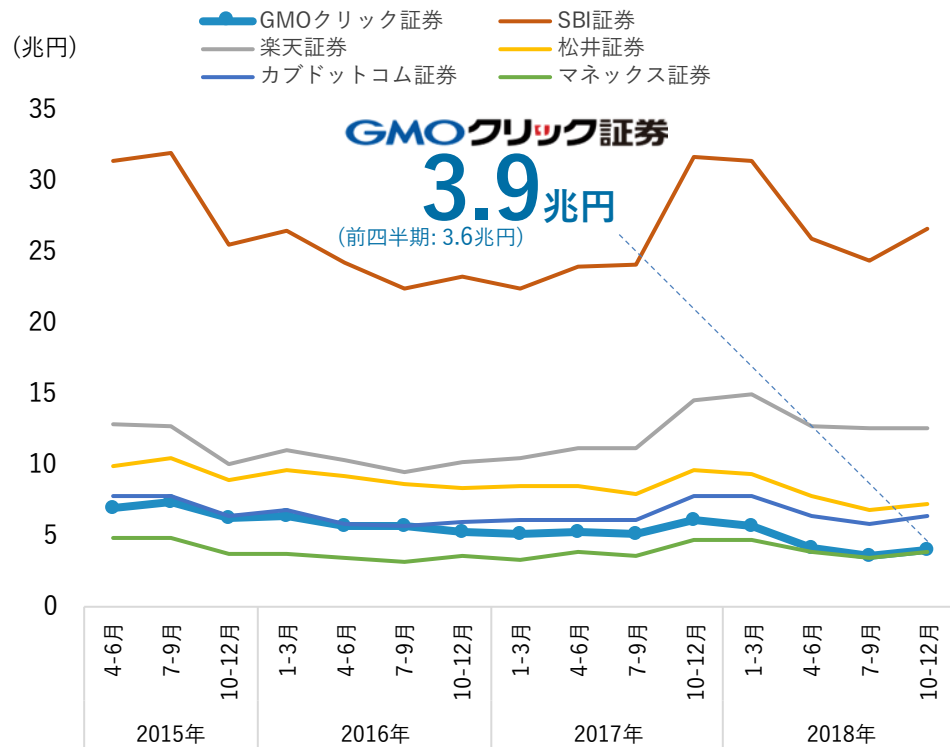


## 店頭FX預り証拠金残高

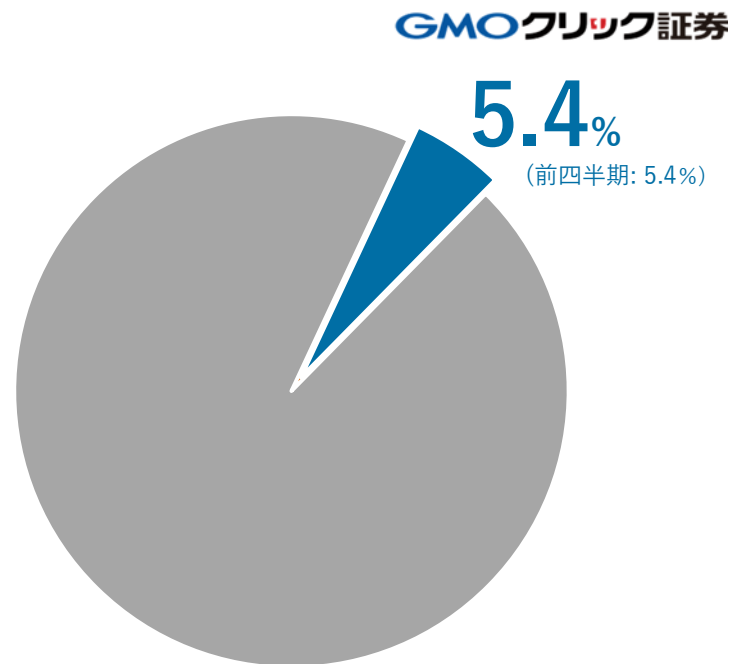


矢野経済研究所月次調査有力FX企業月間データランキング(2016年4月~2018年12月)より当社作成  
(取引高は百万通貨は1億円として換算)

## 主要ネット証券株式等売買代金推移

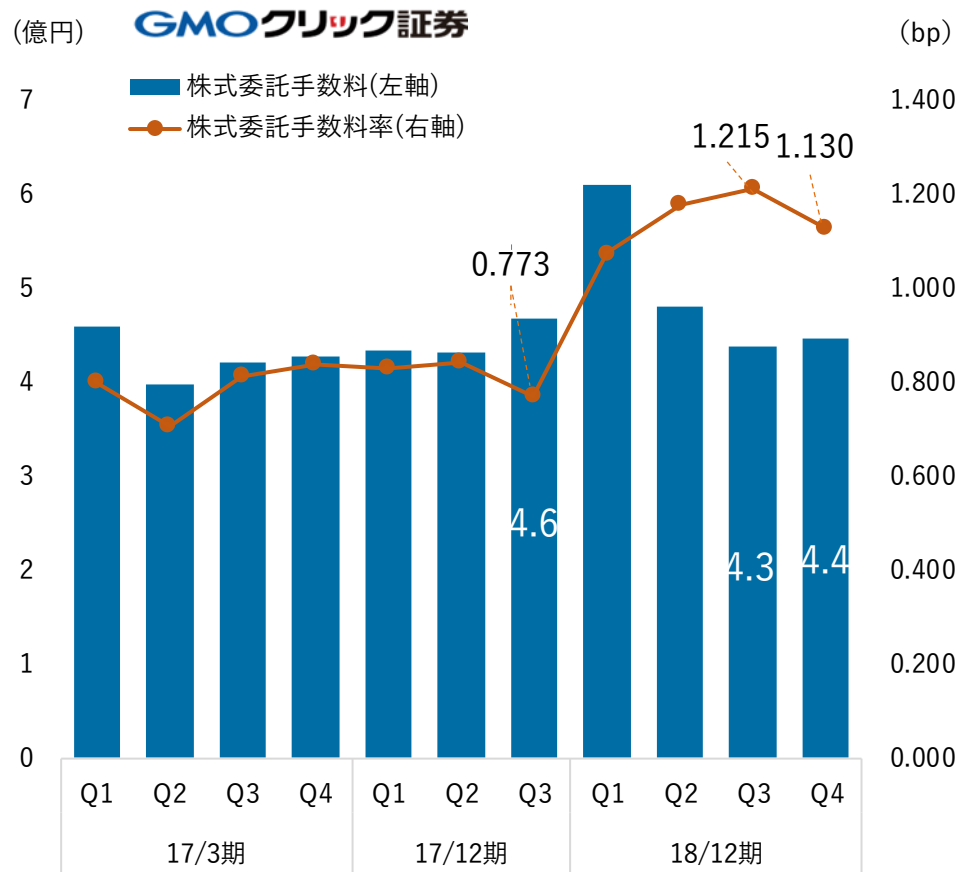


## 2市場に占める個人株式等委託売買代金シェア (2018年10-12月)

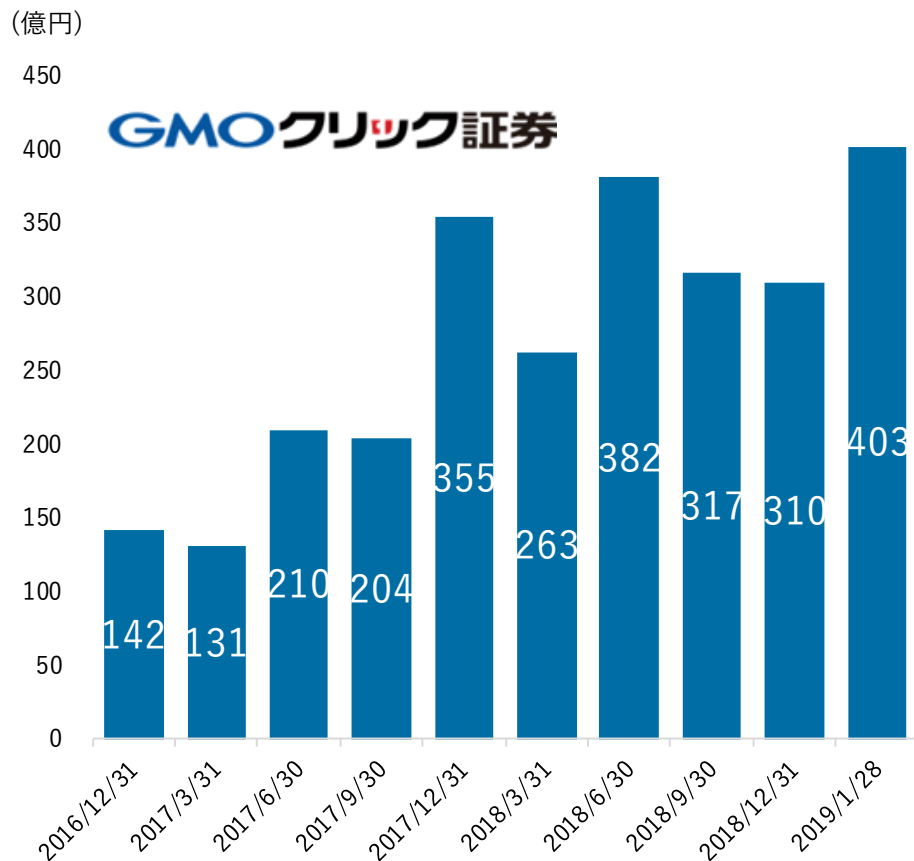


日本取引所グループ、各社公表資料より当社作成  
株式売買代金シェアは、2市場の株式等個人委託売買代金(ETF・REIT含む)に占めるシェア

# 株式 | 国内株式委託手数料・委託手数料率の推移

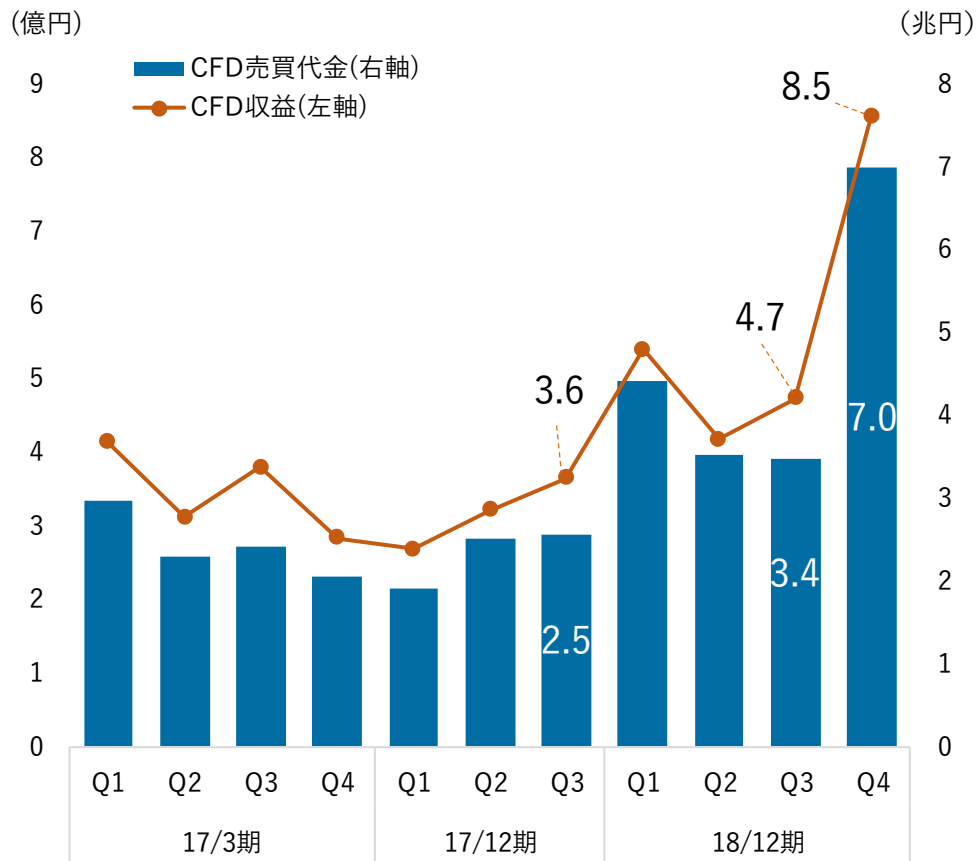


Q/Q  
**2.1%増収**



## 貸株堅調

2016年10月の貸株サービス開始以降、  
貸株残高は堅調に推移



## Q/Q 80.5%増収

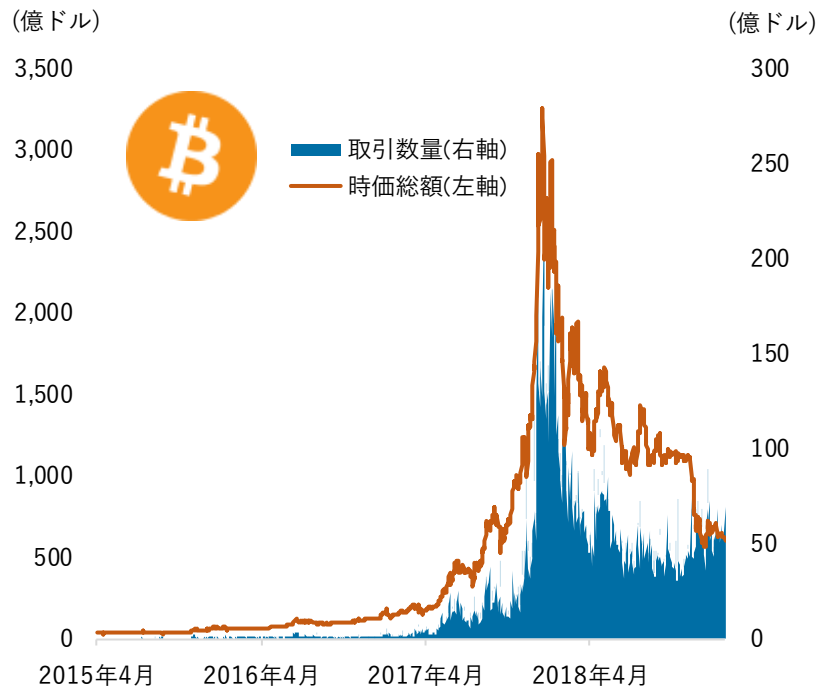
株価指数CFDなどを中心に  
売買代金が増加  
CFDは着実に成長

今後もさらなる成長を図り、  
新たな収益の柱へ

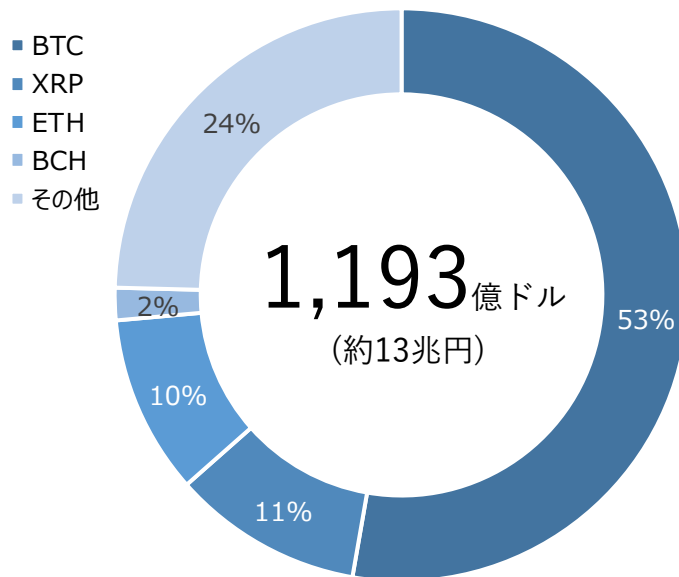
売買代金はGMOクリック証券の数値を参考として記載  
収益には一部海外子会社の店頭FXに係る収益を含む

- 仮想通貨のボラティリティは低水準で推移

## ビットコイン時価総額と取引量の推移



## 仮想通貨全体の時価総額

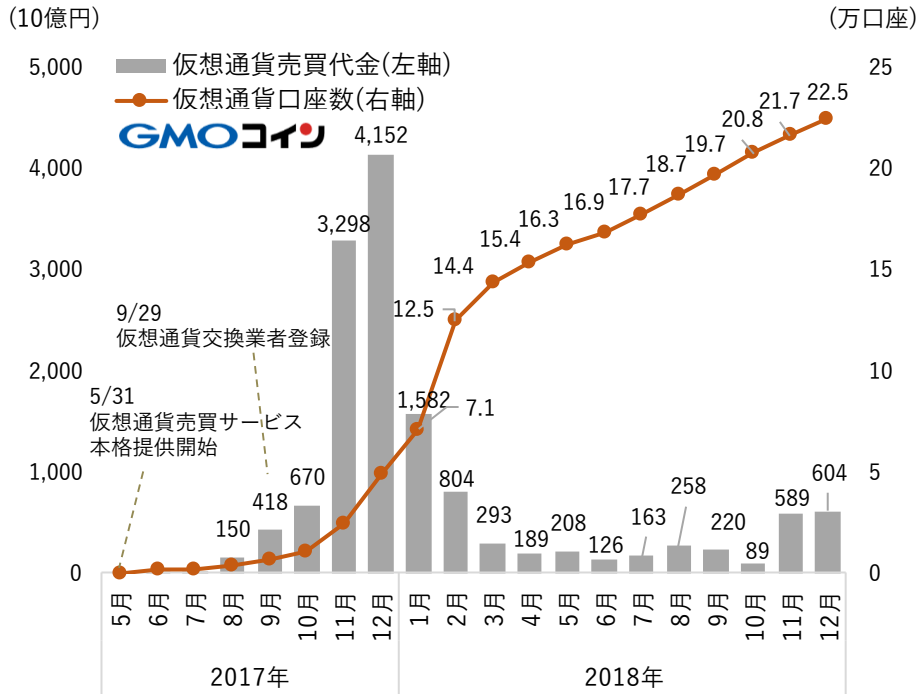


CoinMarketCap調べ(2019年1月27日時点)

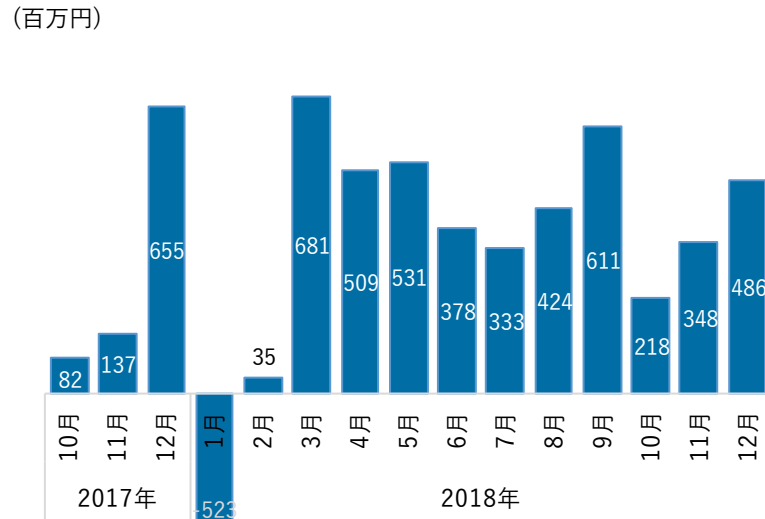
# 仮想通貨 | GMOコインの状況(1/2)

- ボラティリティの減少を背景に、売買代金は減少傾向で推移しているものの口座数は伸長。カバーロジックの見直し等の各種施策の実施により収益は安定的に推移

## 仮想通貨売買代金と口座数の推移



## 仮想通貨収益\*の推移

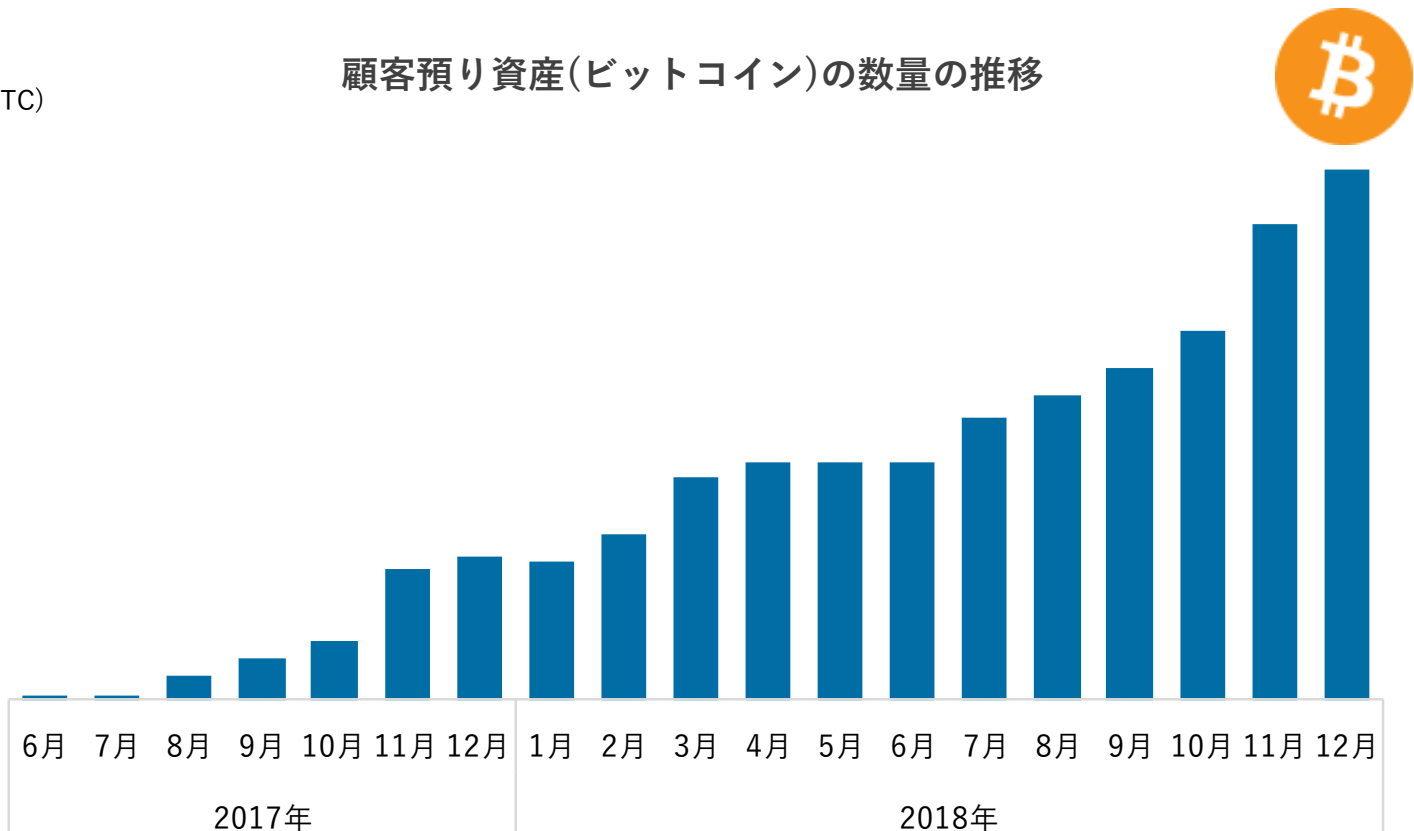


\*2018年3月以前の仮想通貨収益は、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含む

- 顧客預り資産(ビットコイン)の数量は、増加傾向で推移

(BTC)

顧客預り資産(ビットコイン)の数量の推移





## 概要

## 対応状況

サービス利便性向上

シェア拡大に向けて  
サービス徹底強化



GMOあおぞらネット銀行と  
即時入金サービスで連携

プロモーション強化

顧客基盤拡大に向けて  
効果的な広告を実施



TV広告を継続。スプレッド縮小キャ  
ンペーン（2018年11月）を実施

カバーモデルの確立

仮想通貨に最適化した  
カバーモデルの確立



カバーロジックの見直しを継続中

システムリスク  
管理態勢の強化

業容拡大に応じた  
体制の強化



システムリスク管理態勢の強化に  
向けた取り組みを継続

# GMOクリック証券 × GMO あおぞらネット銀行

(億円)

140

120

100

80

60

40

20

0

2018/8/31

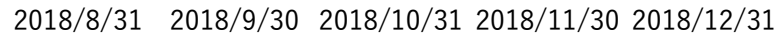
2018/9/30

2018/10/31

2018/11/30

2018/12/31

銀行・証券の口座連携サービス  
証券コネクト口座残高  
順調に伸長



## 目的

## ROEの向上と株主還元の実施

昨今の株式市場や当社株価の動向等を総合的に勘案し、自己株式の取得を決定

取得対象株式の種類	: 普通株式
取得し得る株式の総数	: 2,500,000株（上限） （発行済株式総数に対する割合2.08%）
株式の取得価額の総額	: 1,750百万円（上限）
取得期間	: 2019年2月5日～2019年4月26日
取得方法	: 東京証券取引所における市場買付

## 企業理念

金融サービスをもっとリーズナブルに  
もっと楽しく自由に

あらゆる金融サービスを  
もっと便利に利用できる世界の実現に向けて、  
既存事業のさらなる強化とともに  
新たな金融領域での事業創出に挑戦し、  
「インターネット総合金融グループ」を目指す



2021年12月期  
営業利益目標

# 200億円

(参考) 2018年12月期営業利益 118億円

## □ 既存事業のさらなる収益基盤強化

<店頭デリバティブ>

- FXは、AI・ビッグデータ解析によるFX収益改善の深化とBtoBビジネスの本格展開
- CFDは、プロモーション強化によりマーケットを拡大

<仮想通貨>

- 国内シェア拡大。海外展開も検討

## □ 新規事業の創出

- 「GMO Global Fintech Fund」への出資を通じて、新たな成長分野を開拓

決算概要

事業概況

■ Appendix

# 営業収益（セグメント別/商品別）の四半期推移

(単位：百万円)	17/3期		17/12期			18/12期		
	Q4	Q1	Q2	Q3	Q1	Q2	Q3	Q4
<b>証券・FX事業</b>	<b>5,419</b>	<b>6,612</b>	<b>6,695</b>	<b>6,676</b>	<b>7,923</b>	<b>7,409</b>	<b>7,359</b>	<b>7,340</b>
株式・ETF等	480	484	487	521	679	537	501	500
先物・オプション	55	54	42	81	109	59	63	94
くりっく365	155	126	131	129	194	179	188	156
通貨関連店頭デリバティブ	3,615	4,823	4,725	4,353	5,218	5,095	5,052	4,661
CFD	284	270	322	365	541	418	474	857
金融収益	814	841	961	1,209	1,171	1,110	1,053	1,038
その他	13	11	23	15	9	8	25	31
<b>仮想通貨事業</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>875</b>	<b>192</b>	<b>1,420</b>	<b>1,369</b>	<b>1,053</b>
仮想通貨	—	—	—	875	192	1,420	1,369	1,053
<b>その他</b>	<b>160</b>	<b>258</b>	<b>264</b>	<b>274</b>	<b>230</b>	<b>177</b>	<b>152</b>	<b>156</b>
その他	160	258	264	274	230	177	152	156
<b>調整額</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>△0</b>	<b>0</b>	<b>△0</b>	<b>0</b>
調整額	—	—	—	—	△0	0	△0	0
<b>営業収益</b>	<b>5,580</b>	<b>6,871</b>	<b>6,959</b>	<b>7,826</b>	<b>8,346</b>	<b>9,007</b>	<b>8,882</b>	<b>8,551</b>

当社は、2018年12月期より報告セグメントに新たに「仮想通貨事業」を加え、従来の「金融商品取引業」は「証券・FX事業」へと名称を変更しました。これに伴い、過去分の数値についても組み替えて表示しています。

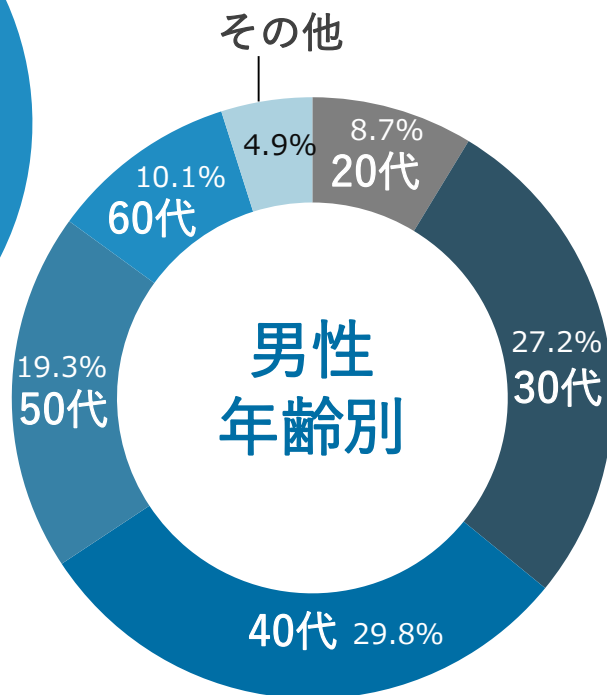
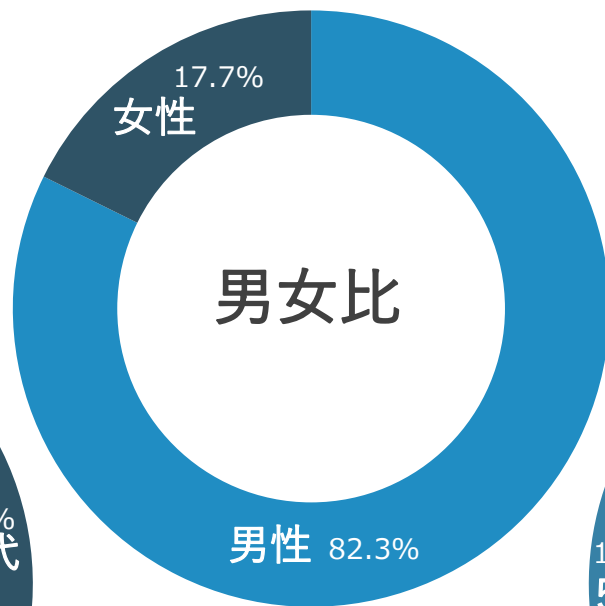
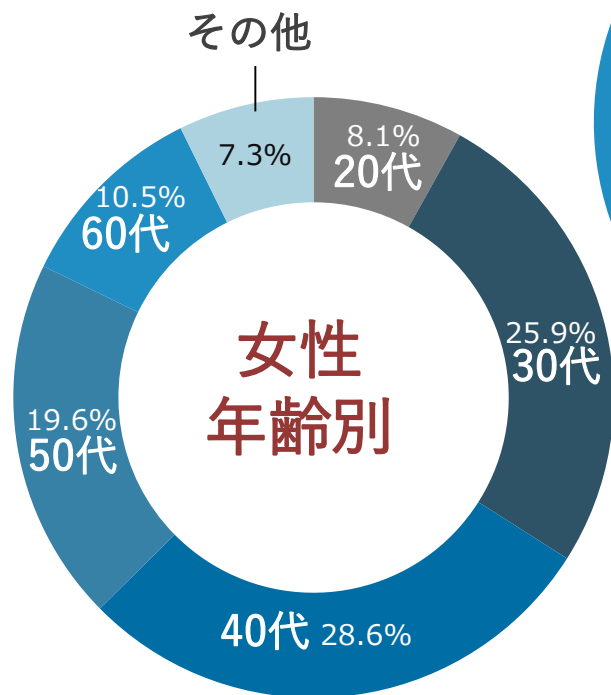
株式・ETF等は、株式・maneo・投資信託の取引から得られる受入手数料を含む  
CFDは、一部海外子会社の店頭FXに係る収益を含む

## 販売費及び一般管理費の四半期推移

(単位：百万円)	17/3期		17/12期			18/12期		
	Q4	Q1	Q2	Q3	Q1	Q2	Q3	Q4
取引関係費	1,631	1,620	1,694	2,012	2,346	2,112	2,248	2,513
（内、広告宣伝費）	819	737	769	979	1,214	1,154	1,310	1,485
人件費	553	718	744	758	983	1,104	992	970
不動産関係費	626	604	610	648	657	703	704	723
事務費	585	578	567	587	754	731	721	755
減価償却費	192	164	186	211	212	216	232	247
租税公課	167	167	179	173	177	177	173	240
貸倒引当金繰入額	△ 1	△ 1	1	△ 9	18	115	△120	△0
のれん償却額	—	—	—	40	40	40	40	40
その他	29	38	25	33	52	43	41	47
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>3,785</b>	<b>3,891</b>	<b>4,009</b>	<b>4,456</b>	<b>5,244</b>	<b>5,245</b>	<b>5,035</b>	<b>5,539</b>

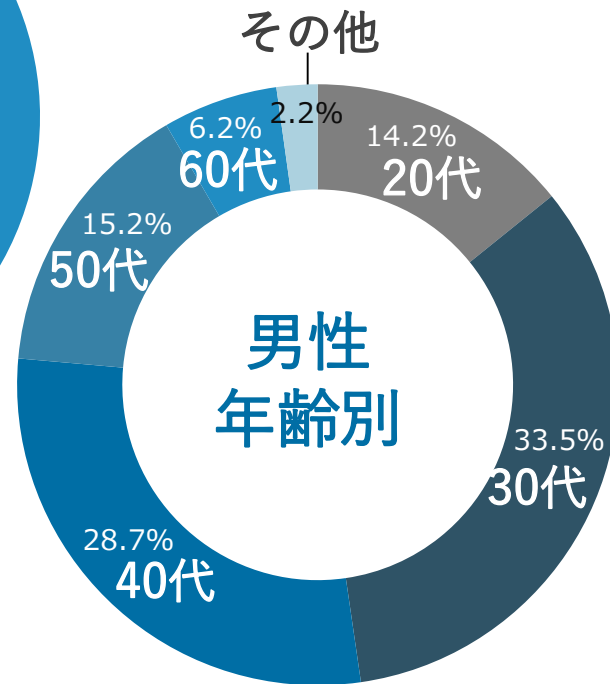
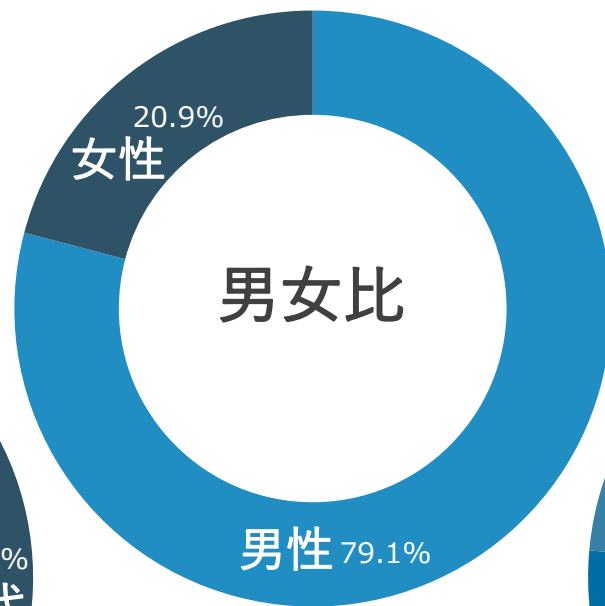
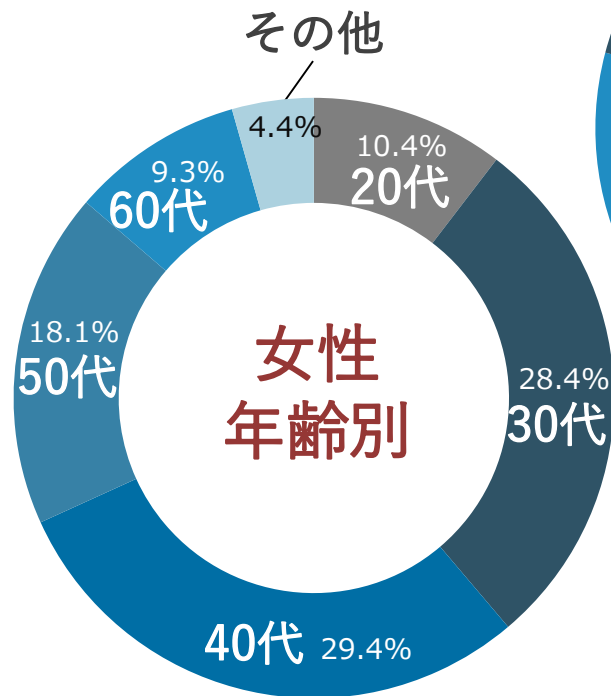


## 証券取引口座



2018年12月末日現在

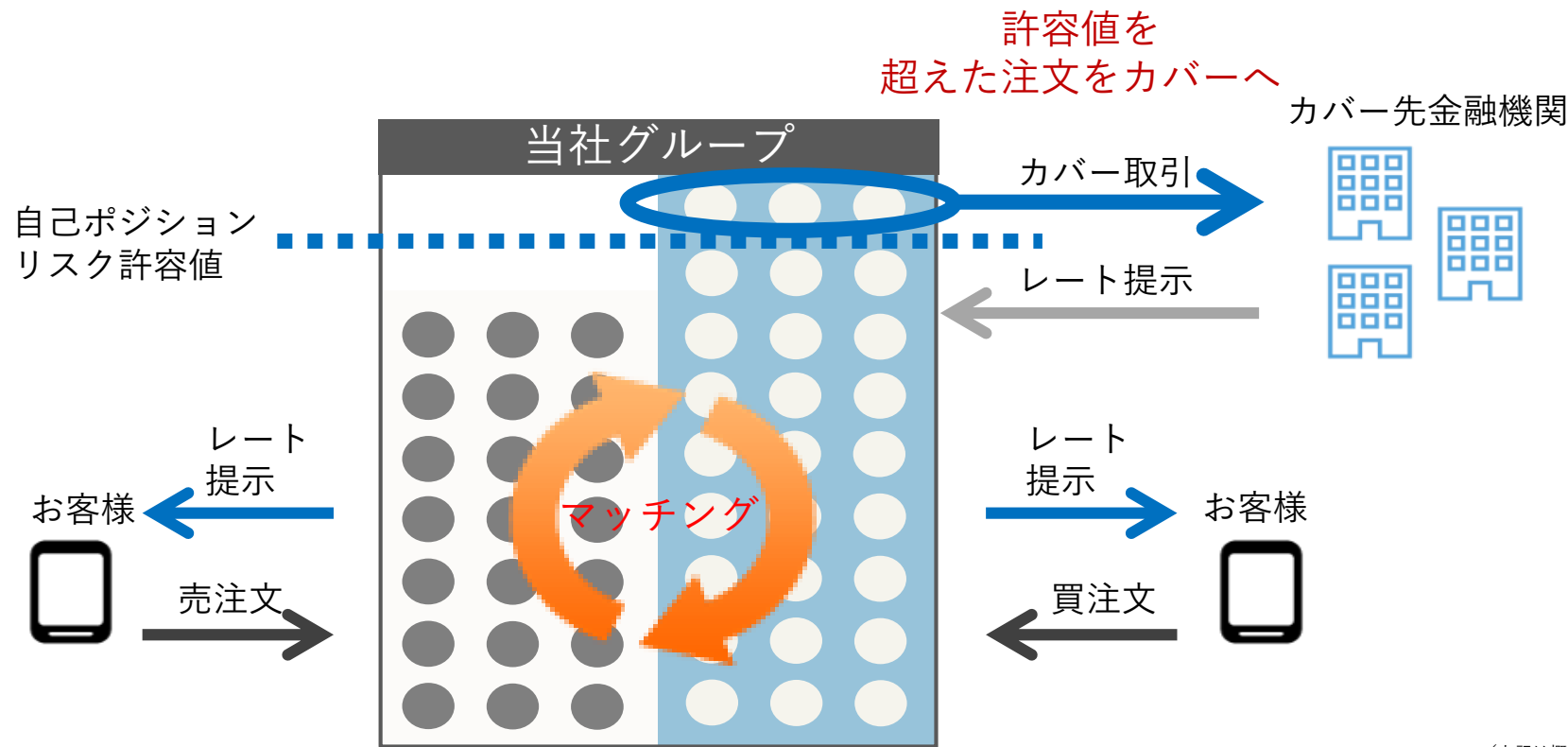
## FX専用取引口座



2018年12月末日現在

# ビジネスモデル (店頭デリバティブ取引)

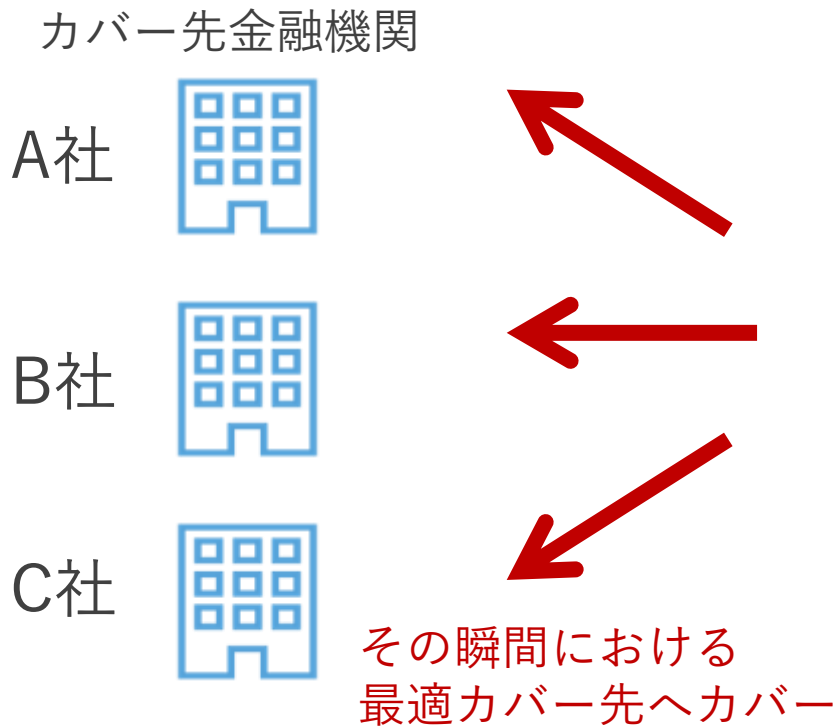
効率的なマッチングと徹底したリスク管理を追求



(上記は概念図)

# ビジネスモデル（店頭デリバティブ取引）

細かなチューニングによりカバー取引を最適化

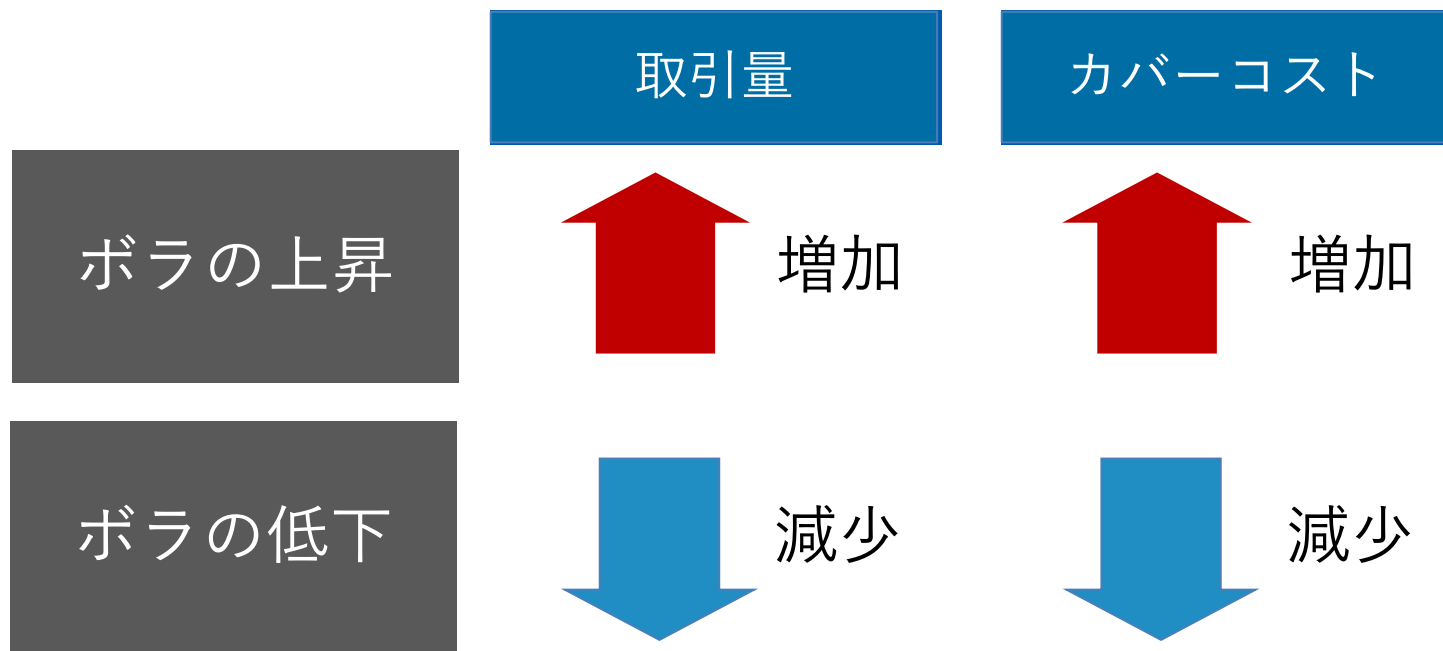


（上記は概念図）

# ボラティリティと収益の関係

収益  
構造

対顧客取引  
(対顧客スプレッド × 取引数量) - (カバー取引  
カバースプレッド × カバー数量)



(上記は概念図)

## 免責事項

本資料には、2019年2月5日現在の将来に関する前提、見通し、計画等に基づく予測が含まれています。世界経済、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや天変地異などの不確定要因により実際の業績が記載の予測と大きく異なる可能性があります。またマーケットシェアなどの数値について一部弊社推計値が含まれております。調査機関によって異なる可能性があります。

また本資料に掲載されている情報は、情報の提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。また本資料内に記載されている業績予想などの将来の予測に関するものは、リスクや不確定要因を含みます。実際の業績は経済情勢や市場環境など、さまざまな要因により、かかる予想とは大きく異なることがあることをご承知おきください。当該情報に基づいて被ったいかなる損害に関しても、その理由の如何に関わらず一切の責任を負うものではありません。